

## 第3章 現状把握と目標設定の方法

アライグマの対策を効果的・効率的に進めていくためには、あなたのマチに生息するアライグマの捕獲情報を整理し、「どこに多いのか?」、「どのくらい捕獲すればいいのか?」、「捕獲による効果はあったのか?」などの分析を行うことが重要です。

本章では、第1章の「捕獲の流れ」に沿って、地域の分布状況や増加が懸念される地域の抽出、捕獲目標の設定、捕獲の取組結果の評価の3つの視点から、捕獲情報を整理・分析する方法についてご紹介します。

### 1. わがマチの現状を把握する方法

#### ① 各市町村における分布状況（市町村単位での捕獲数・農業被害額）

- ・捕獲数は、対象とする地域の大まかなアライグマの数の指標となりますが、捕獲活動に力を入れるほど、値が大きくなるという特性も持ち合わせています。
- ・どれくらい捕獲活動に力を入れているか（捕獲努力量）を「**ワナかけ日数**」（詳細は1章の1参照）で表し、捕獲数をワナかけ日数で割った数値に100をかけることで、**CPUE**（Capture per unit effort: 単位努力量あたりの捕獲数）という生息密度の指標が得られます。

計算式

$$\text{CPUE} = \frac{\text{捕獲数}}{\text{ワナかけ日数}} \times 100$$

- ・毎年度、北海道へ提出されている捕獲数等の情報をもとに、北海道のホームページでは図3-1のような地図（北海道アライグマ捕獲等情報マップ）が公開されています。



- ・地図を拡大して、あなたのマチや周辺のマチでのアライグマの生息状況、被害状況を確認してみましょう。

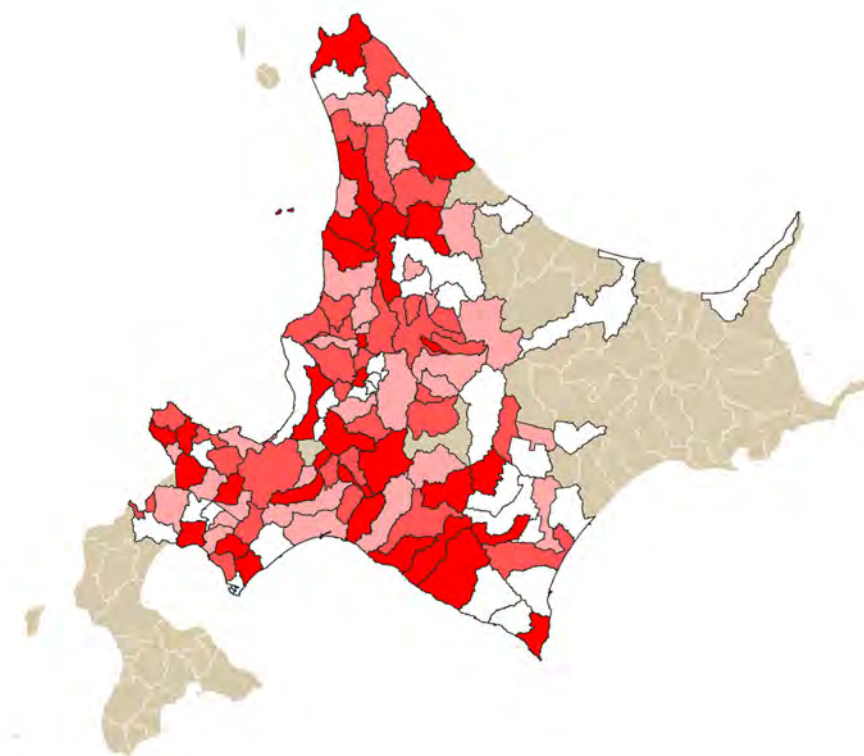


図3-1 市町村ごとのCPUEマップの例

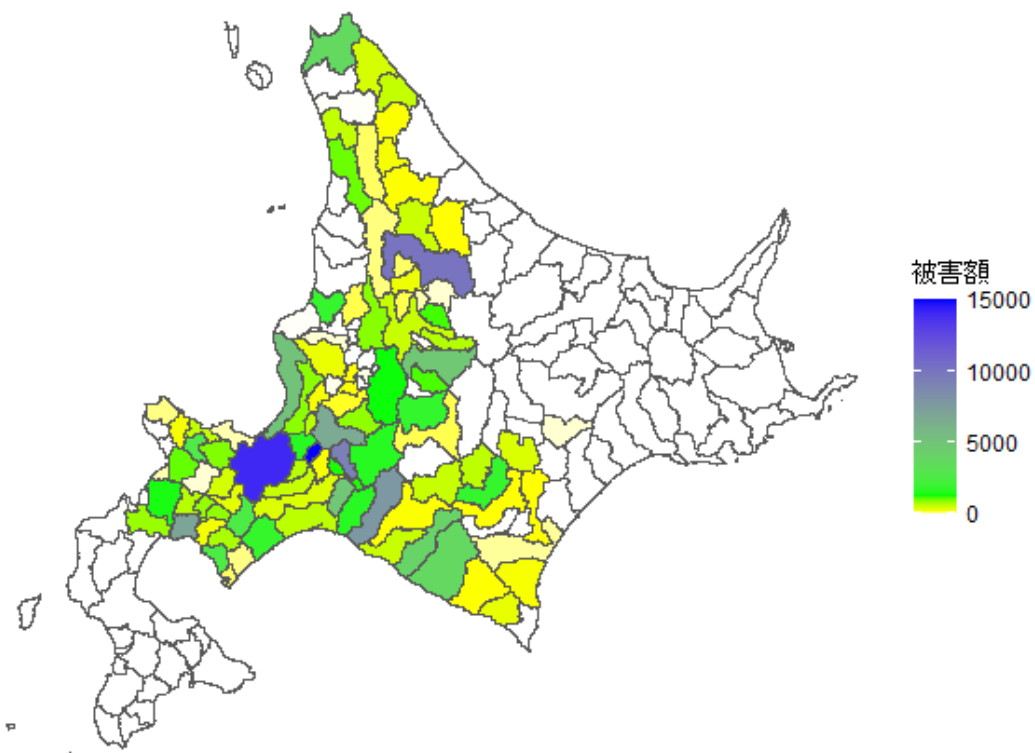


図3-2 市町村ごとの農業等被害額マップの例

② 地域内の分布状況（5km メッシュ捕獲数、5km メッシュ CPUE）

- ・あなたのマチの中のどこで捕獲数が多いのか、または生息密度が高いのか、**北海道アライグマ捕獲等情報マップ**で確認してみましょう。

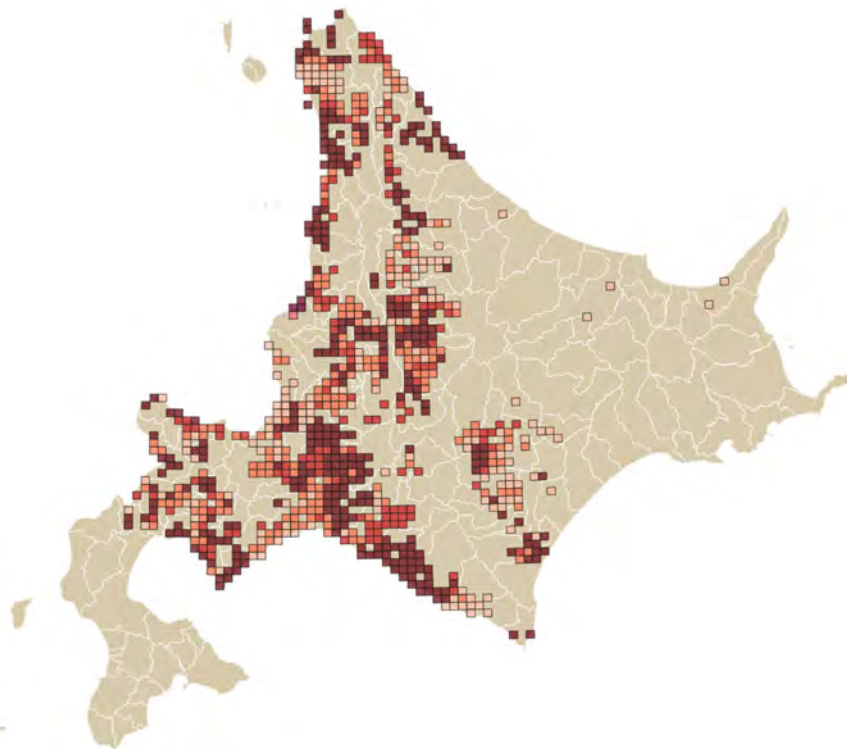
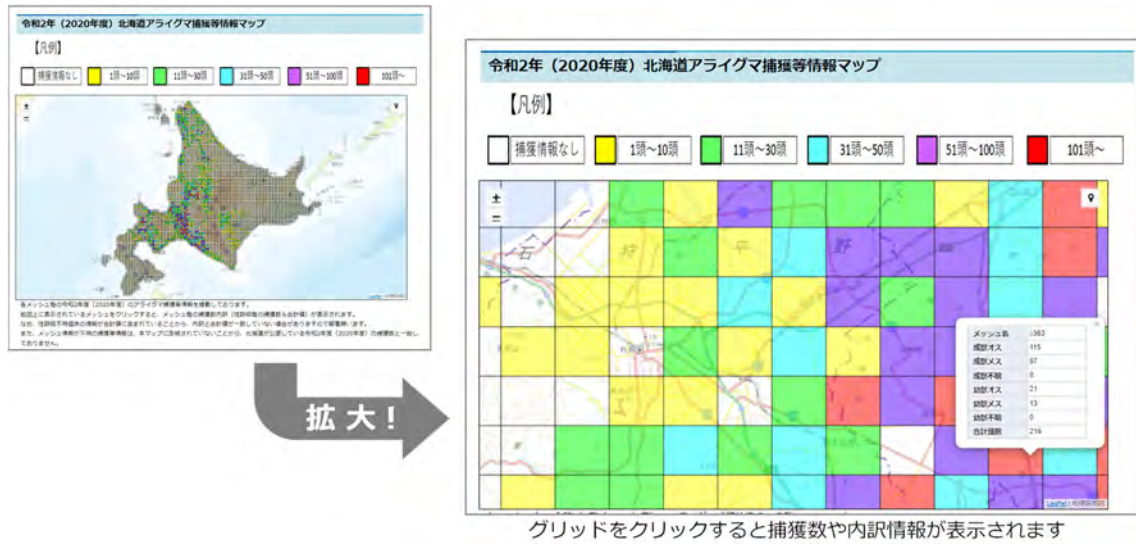


図3-3 5kmメッシュでの捕獲数（右上）や5kmメッシュでのCPUE地図の例

### ③ 増加が懸念される地域（メス（&幼獣）捕獲マップ）

- ・哺乳類は、近縁での交配をさけるために、メスは生まれたところにとどまり、オスは生まれたところから遠くに分散することが知られています。
- ・つまり地域への定着が進むと、分布の中心部にはメスが多く、分布の辺縁部ほどオスが多いという分布構造になります。
- ・この構造を踏まえると、メスが捕獲されている地域では、今後継続的に数が増加する可能性があることとなります。
- ・これを逆にとり、**メスがいる地域で優先的に捕獲を行う**ことで、効率的に増えにくい状態にできることが期待されます。

（浅田 2013）

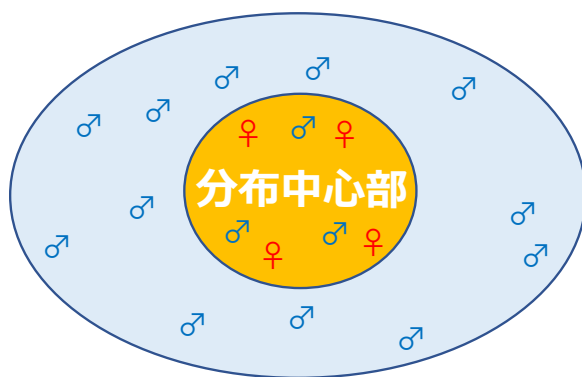
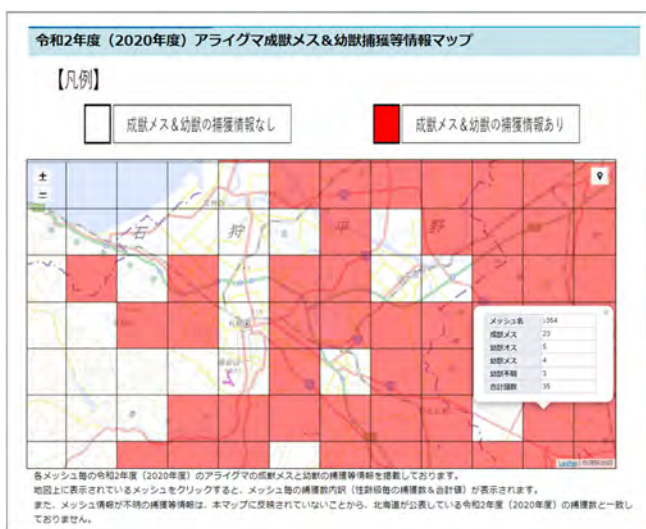


図3-4 オスとメスの分布構造のイメージ

- ・あなたのマチでのメスの捕獲状況は？  
北海道アライグマ捕獲等情報マップで確認してみましょう。



←メスの存在を示す幼獣の捕獲情報も参考になります

図3-5 アライグマ成獣メス&幼獣捕獲等情報マップの例

④ 捕獲重点地域の設定の考え方 (5km メッシュ単位)

- ・第1章の1で説明した捕獲重点地域の設定について紹介します。
- ・CPUE マップであなたのマチの色分けを確認し、下記の手順で捕獲重点区域を設定してみましょう。

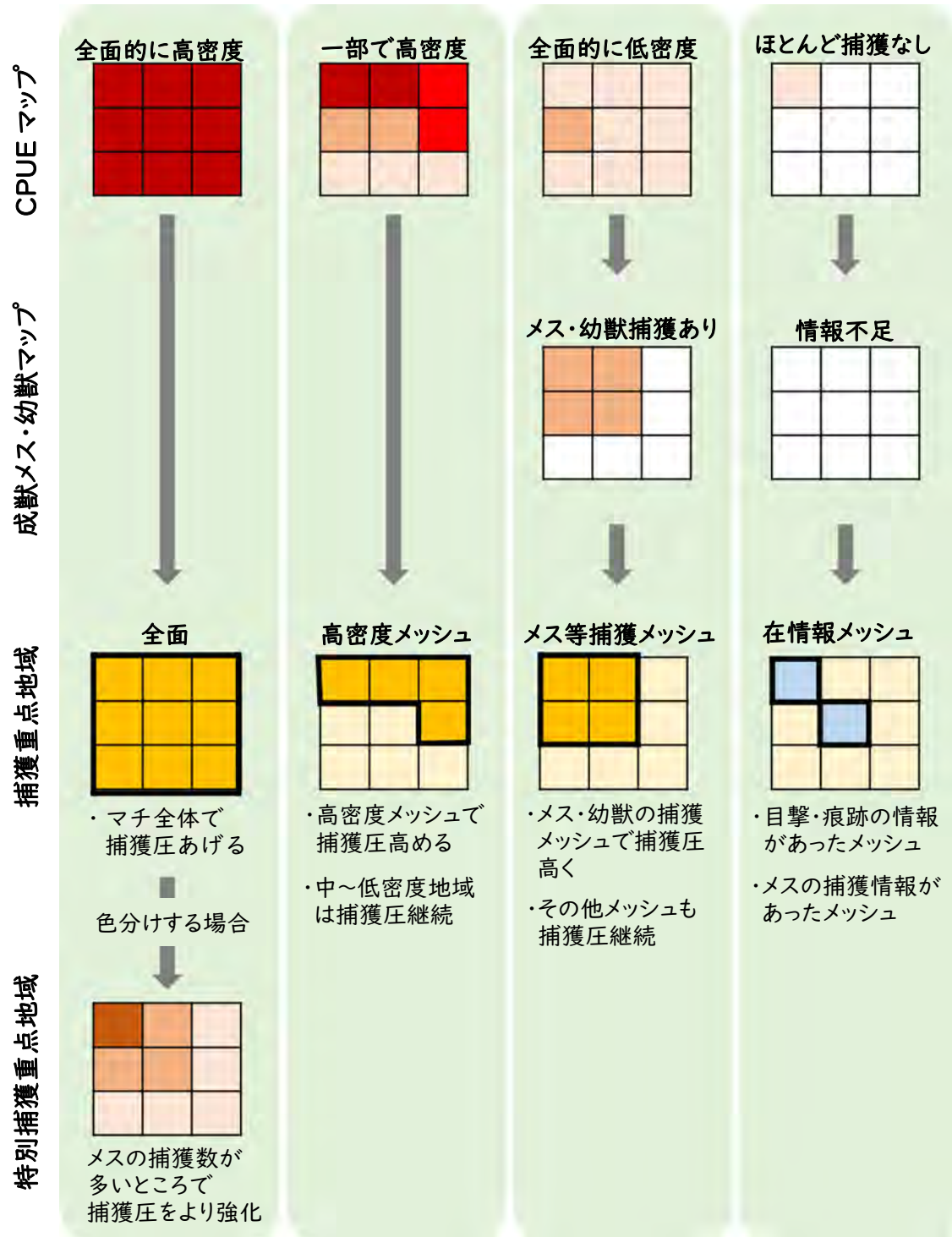


図3-6 捕獲重点地域の設定の考え方

### コラム⑩ ワナの設置密度、どれくらいの距離でワナを置く？

- 地域のアライグマの数を効果的に減らすためには、行動圏に見合った密度でワナを設置する必要があります。
- 例えば千葉県では、200～300m 四方に 1 個のワナ密度で生息数が減りました（浅田 2013）。
- 北海道におけるこれまでのアライグマの行動圏の大きさに関する研究に基づくと、およそ 500m 四方に 1 個のワナを設置できることが望ましいです。
- 北海道の捕獲事業で、実際に 500m 四方にワナ 1 つの密度でワナを設置したところ、対象地域のアライグマの生息密度が低くなりました。

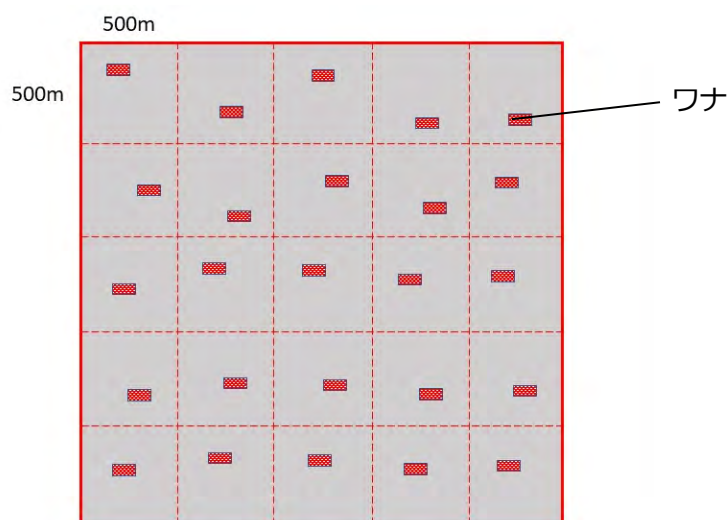


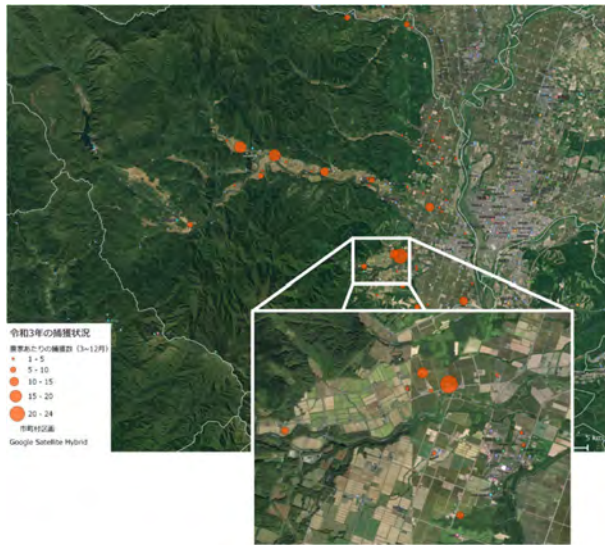
図 3-7 ワナの設置密度のイメージ図

⑤ 発展編～ より詳細に生息状況を知るためには？

- ・北海道アライグマ捕獲等情報マップは、5km メッシュごとに集計されていますが、5km 四方という大きさは、人間にとってもアライグマにとっても大きなスケールとなります（5 kmメッシュはアライグマ1～8 頭分の行動圏が収まる大きさ）。
- ・より正確にマチの捕獲状況を知るためには、捕獲従事者の居住地やワナの設置場所などの**地点ベースで捕獲数を整理**し、地図上に表すことが有効です。

例

捕獲従事者の居住地ごとに捕獲数をまとめた例



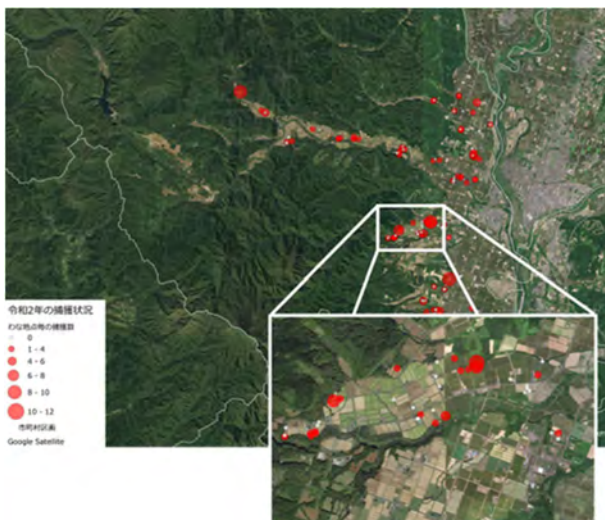
メリット

捕獲従事者の住所が分かれば集計は容易

デメリット

ワナを置いた場所を正確に表すとは限らない

ワナの設置場所ごとに捕獲数をまとめた例



メリット

捕獲のあった場所、なかった場所が具体的にわかる

デメリット

収集労力が大きく、全捕獲者の情報収集は困難

メスや幼獣が捕獲された地点の色を変えたり、捕獲数を直接書き込んで整理すると、地図がわかりやすくなる場合があります。

- ・捕獲従事者へ捕獲結果の還元をする際や、町内の捕獲状況に関する情報共有をする際にも、地点ベースでの捕獲情報の整理は効果的です  
「誰がたくさん獲ってるの?」「みんなどこで獲ってるの?」  
など、対策のモチベーション維持や技術的な意見交換の材料になります。



図3-8 捕獲状況に関する意見交換会の様子



## 2. 目標を設定する方法

### ① 生息数推計

- ・目標捕獲頭数の設定は、被害防除実施計画の策定や、数を減らすために必要なコストを見積もる上での活用が想定されます。
- ・目標捕獲頭数を設定するために、まずは当該年度の推定個体数を簡易的に計算してみましょう。

### 必要なデータ

- 当該年度のマチの捕獲数
- 当該年度のマチのワナかけ日数(ワナごとの総設置日数)
- マチで捕獲が行われているメッシュ数

### 計算手順①

- $a \div b \times 100$   
生息密度指標 CPUE を求めます (p.44)。
- $(I + 0.6924) \div 1.6045$   
CPUE を推定生息密度に換算します。  
(地域からアライグマを排除するための手引き(参照文献2))
- $II \times c \times 25$   
II で求めた  $1\text{km}^2$  あたりの生息数にメッシュ数と 1メッシュあたりの面積をかけて当該年度の生息数が推定されます

※野生動物の正確な生息数を算出するのはとても難しく、現実的ではありません。

ここで算出する個体数は、あくまでも簡易的な計算結果であることを意識しましょう。

## ② 個体数増を抑えるための最低目標捕獲頭数

- ・アライグマは年率約 1.5 倍の増加率で個体数が増えるといわれています。
- ・①で求めた推定個体数に 1.5 を乗じることで、捕獲をしなかった場合の翌年度の推定個体数を計算することができます。

### 計算手順②

$$\text{IV. (翌年度の推定個体数)} = (\text{当該年度の推定個体数}) \times 1.5$$

- ・数を減らすためには、翌年度に増加する数以上を捕獲する必要があります。
- ・つまり、最低の目標捕獲頭数は、翌年度の増加数であり、以下の式で計算できます。

### 計算手順③

$$\text{V. (最低目標捕獲頭数)} = (\text{翌年度の推定個体数}) - (\text{当該年度の推定個体数})$$

「最低」目標なので、この値以上を目標とするのが望ましい

### 〈①～②の計算手順の計算例〉

項目	数値	計算内容
a 当該年度の捕獲数	129	
b ワナかけ日数	2420	
I CPUE	5.3*	a / b × 100
II 推定密度	3.7*	(I + 0.6924) / 1.6045
C 対象メッシュ数	7	
III 当該年度の個体数	648**	II × c × 25
IV 翌年度の個体数	972**	III × 1.5
V 翌年度の増加数 (最低目標捕獲頭数)	324	IV - III

※ここでは、\*は小数点第2位を、\*\*は小数点第1位を四捨五入して計算しています。

### ③ 最低目標捕獲頭数を達成するために必要な捕獲努力量

#### ● 目標頭数 > 当該年度捕獲数 のとき

・捕獲努力量を増やす必要があります。以下の式で何倍努力すべきか計算してみましょう。

#### 計算式

$$(\text{必要な捕獲努力量の倍数}) = (\text{最低目標捕獲頭数}) \div (\text{当該年度の捕獲数})$$

・②の計算例の値を使って例示的に計算すると、

$$(\text{必要な捕獲努力量の倍数}) = 324 / 129 = 2.51162... \approx 2.5 \text{ (倍)}$$

・つまり、翌年度はワナかけ日数を 2.5 倍にするような努力が必要になります。

例) 設置ワナ数を 2.5 倍に増やす、ワナ設置日数を 2.5 倍にする、従事者数を増やす、などなど

#### ● 目標頭数 ≤ 当該年度捕獲数 のとき

・順調に捕獲圧がかかっていますが、油断は禁物です。

当該年度と同等の捕獲努力量を維持することで、より確実に数を減らすことができます。

### コラム⑩ 必要な捕獲努力量に係るコストの算出

- ・①～③により、翌年度の大まかな必要捕獲努力量が求められることがわかりました。
- ・追加的に捕獲関連の資材を購入する場合は、①～③で算出した最低目標捕獲頭数や必要捕獲努力量に基づいて見積もりができます。

#### 〈計算例〉

##### ワナ追加購入の場合

$$((\text{所有台数}) \times (\text{必要な捕獲努力量の倍数}) - \text{所有台数}) \times (\text{ワナ単価})$$

##### 炭酸ガス購入の場合

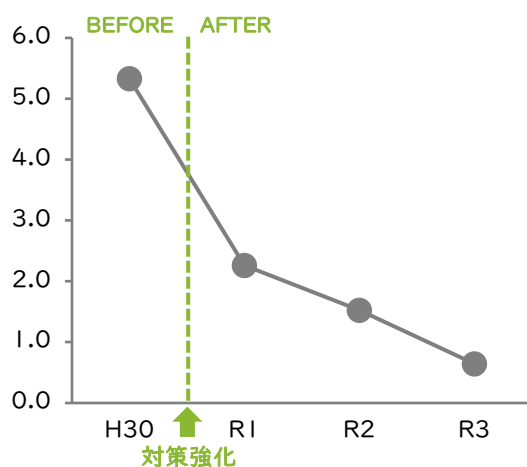
$$(\text{目標頭数}) / (\text{ガスタンク容量} / \text{1回の使用量}) \times (\text{ガスタンク単価})$$

### 3. 捕獲を評価する方法

- ・ 1～2 を踏まえて捕獲対策を進めた結果、あなたのマチのアライグマの生息状況がどうなったのか評価をすることで、取組が十分だったか、さらに努力が必要だったのかが見えてきます。
- ・ 取組を評価するための指標として、CPUE と農業被害額の 2 つが挙げられます。

#### - CPUE

(生息密度指標)



#### - 農業被害額

(アライグマの影響の強さを示す)

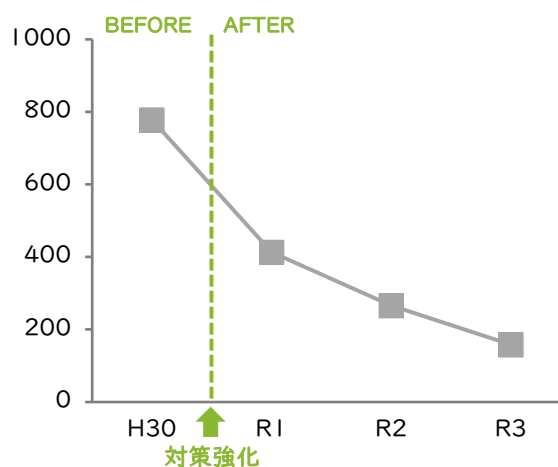


図 3-9 新十津川町における CPUE と農業被害額の推移

- ・ アライグマの対策は、長期間にわたることを覚悟しなければなりません。一年ごとの増減に一喜一憂せず、長期的な動向を把握していくことが重要です。

※そもそも捕獲がほとんどない、マチにアライグマがいるかどうか分からない場合被害が表面化したときは長い戦いの幕開けです。センサーカメラや目撃情報の収集で情報を集めましょう。また生息数が少ないとアライグマよりも他の動物が捕獲されることが多く、ワナの管理の手間が大きいので、予防的な捕獲には錯誤捕獲防止機能付きわな（コラム⑦[P27]）等を使うと良いでしょう。

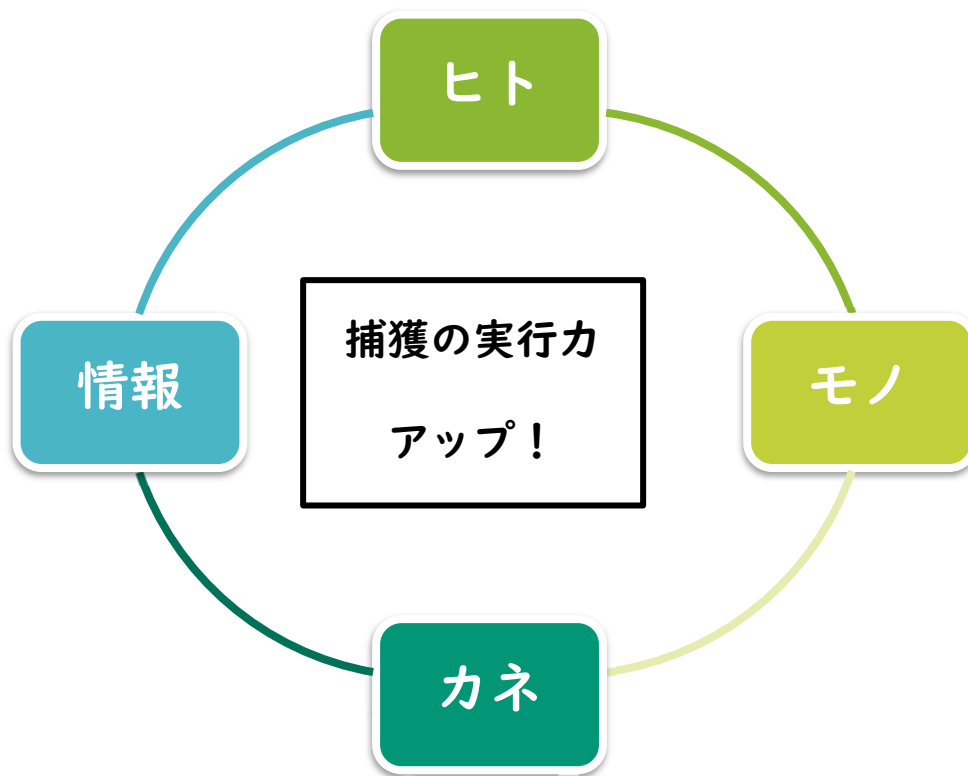
#### 引用文献

- 浅田正彦（2013）ニホンジカとアライグマにおける低密度管理手法「遅滞層管理」の提案. 哺乳類科学 53 巻 2 号, 243-255 頁.
- 環境省北海道地方環境事務所・NPO 法人 EnVision 環境保全事務所(2008)地域からアライグマを排除する手引き.

## 第4章 これまでの取組から学ぶ改善方法

道内の多くのマチでアライグマ対策が難航しています。一方、広い道内で様々な取組が展開されているので、自分のマチにとって参考になる事例がどこかにあるかもしれません。

本章では、北海道が平成30(2018)年度に作成した「アライグマ対策に関する市町村実態調査結果報告書」(以下、アンケート結果)やアライグマ捕獲事業、捕獲技術研修を通じて得られた事例をもとに、捕獲の実行力アップに必要な「ヒト」「モノ」「カネ」「情報」に項目を分けてQ&Aを作成しました。現状の課題を改善するきっかけになれば幸いです。



## Q&A の一覧

### I. ヒト

1. 捕獲してから処分するまでどのような体制を組めばいいでしょうか？
2. 捕獲従事者を増やすにはどうしたらよいでしょうか？
3. 役場の人手がどうしても足りません。専門で担当してくれる人がほしい。

### II. モノ

4. 捕獲従事者へ捕獲関連機材を支援することはできますか？
5. 生息調査をする場合、どのような調査資材が必要ですか？
6. 見回り労力を軽減できるような機材はありますか？
7. 捕獲が増えて安楽殺に時間がかかります。短縮する方法はありますか？

### III. カネ

8. 捕獲経費が足りない!どんな予算支援がありますか？
9. 鳥獣被害防止対策総合交付金や多面的機能支払交付金を何の用途で使っているのでしょうか？
10. 捕獲奨励金を設定したほうがいいですか?また、金額の基準はありますか？

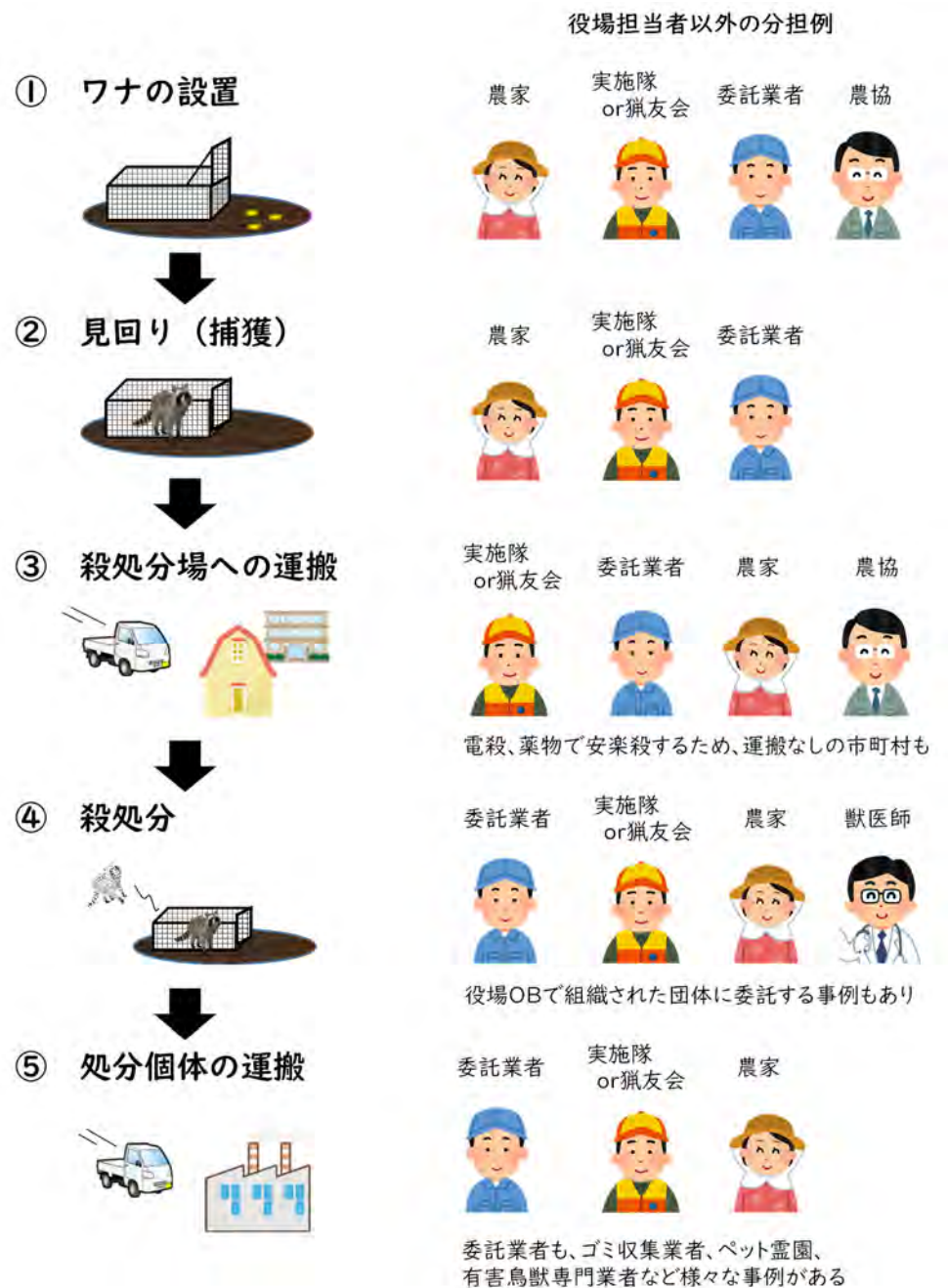
### IV. 情報

11. 初めて業務を担当することになり、アライグマの生態や防除に関する知識がありません。どのように学べばよいでしょうか？
12. 捕獲従事者向けにアライグマの捕獲方法を学ぶ機会をどのように企画すればいいですか？
13. 捕獲技術に関するおススメのテキストや映像資料はありますか？
14. アライグマによる問題を一般住民に伝えるにはどうしたらいいでしょうか？
15. 捕獲従事者に町全体の捕獲に関する情報を還元する必要はありますか？
16. 捕獲従事者のやる気を上げるために役場ができることがありますか？
17. 捕獲作業を分担したことによって関係者への連絡が煩雑になりました。どうしたらいいでしょうか？

## I. ヒト

### Q1. 捕獲してから処分するまでどのような体制を組めばいいでしょうか？

A1. アンケート結果では、58市町村のうち29市町村で捕獲から処分まで全ての作業を市町村担当者が担っていました。一方で、一部の作業を農家や委託業者などに分担している市町村もみられました。それぞれの作業を分担することで、市町村担当者の疲弊を防げるかもしれません。



Q2. 捕獲従事者を増やすにはどうしたらよいでしょうか？

A2. 被害を受けている農家や地域住民などに広く呼びかけることで、新たな捕獲従事者を確保できるかもしれません。

例) 新十津川町

- 広報
- 捕獲奨励金の導入
- ワナの貸し出し

などの取組を行った結果、捕獲従事者数が年々増加。



例) 十勝総合振興局



地域住民向けの講習会の開催したことで、捕獲従事者が増加。

例) 兵庫県丹波篠山市 NPO 法人大山捕獲隊



横山・西牧（2020）より許可を得て転載。

丹波篠山市においてアライグマ捕獲を継続することにより、ワナの監視や餌の交換を申し出る住民が複数現れるなど、地域一体となった捕獲活動に発展。

引用文献

横山真弓, 西牧正美 (2020) 住民主体によるアライグマ捕獲隊の活動事例～大山捕獲隊の活動記録. 「兵庫県における外来哺乳類の現状と課題」, 兵庫ワイルドライフモノグラフ, 12:49-66 頁.



Q3. 役場の人手がどうしても足りません。専門で担当してくれる人がほしい。

A3. 地域おこし協力隊等を導入して、鳥獣関係の業務を任せている事例があります。

例) 占冠村の鳥獣専門員

**野生動物対策の状況** 農林課 野生鳥獣専門員 ☎0167 (56) 2174

**◆全般◆**  
 村は令和4年度も引き続き、エゾシカ、ヒグマ、アライグマをはじめとする野生鳥獣に対し、実態の把握と被害の軽減に努めます。また、猟区制度を活用して、狩猟や有害鳥獣駆除に係る不正や危険、不安の除去を図ります。  
 村民の皆さまとは、これまで以上に交流の機会を増やし、双方向の情報伝達を通じて、村の動物たちのことをより深く知り、また効果的な被害対策ができるよう取り組んでいきます。昨今の疫学的環境により、思うに任せないことも多いのですが、皆さまとともに、工夫して進めていきたいと思えます。  
 担当部署は農林課林業振興室、今年度も野生鳥獣専門員は浦田です。一年間、よろしくお願ひします。村の有害鳥獣駆除に従事する皆さまのご紹介は、来月号を予定しています。

**ヒグマ**  
 そろそろ、多くのクマたちが穴を出て活動を始める季節です。山林では痕跡にも注意し、遭遇しないよう気をつけましょう。目撃や痕跡等のヒグマ情報は、ぜひ担当までお寄せください。人や住宅、道路に付きまとう個体があれば、危険除去のための対応をとります。また、危険や不安のないような情報でも、基礎データとして役立てていきます。今期も皆さまのご協力をお願いします。

**アライグマ**  
 昨年は3～4月にかけて、住宅周りでの出現、捕獲が相次ぎました。今年は3月中旬現在において、さほどの動きはありませんが、生息数は減っていないと思われしますので、来る状況に対応していきたいと思えます。

**エゾシカ**  
 2月の駆除捕獲は14頭で、思いのほか少なくなりました。例年、4月中旬頃から出現数が爆発的に増

**◆猟区の入猟対応について◆**  
 当期のガイド付きシカ猟は4月15日まで、感染対策をとりつつ実施していきます。  
 占冠村猟区では、村の承諾なく狩猟を行うことは

元地域おこし協力隊員。猟区の運営に関わりながら、鳥獣捕獲に関する関心を高めるために、広報しむかっぷを通じて、活動内容を発信しています。

例) 沼田町の地域おこし協力隊員



捕獲指導から捕獲個体の処分まで、現場作業を中心に担当。地域おこし協力隊員を経て、役場の鳥獣担当職員になった事例もあります。

## II. モノ

### Q4. 捕獲従事者へ捕獲関連機材を支援することはできますか？

A4. 箱ワナなどの捕獲関連機材は、役場が準備していることで円滑な捕獲活動の拡大につながります。捕獲作業の中でワナが破損してしまうこともあり、貸出しワナが充実していると捕獲従事者任せのワナ購入より安定した捕獲が期待できます。



新型のワナなども役場で率先して導入すると、捕獲従事者に波及しやすいでしょう。

### Q5. 生息調査をする場合、どのような調査資材が必要ですか？

A5. 生息調査の方法として、カメラトラップが挙げられます。この場合、自動撮影カメラ本体の他、電池やSDカード、設置する場所によってはカメラをくくりつける杭や掛けやが必要です。（※カメラトラップの詳細やカメラトラップ以外の調査方法は第2章の1参照）



建物内では三脚を使って自動撮影カメラを設置するという手もあります。

**Q6. 見回り労力を軽減できるような機材はありますか？**

A6. ワナの見回り労力を軽減できる通信型のカメラや捕獲通信システムが開発されています。捕獲通信システムは無線などを介してワナの作動状況を携帯電話やPCに通知するシステムです（コラム⑨参照 [P31]）。資材購入費およびシステム利用に係る諸経費がかかりますが、すでに導入している市町村からは見回り労力を減らすことによって、「設置する箱ワナを増やせた」「遠隔地にも箱ワナを置くことができた」と高い評価が得られています。



通信型のカメラ

カメラ本体や電池、SDカードの他、通信費がかかります。

捕獲通信システム



親機

20～30万円ほど。一台で複数台の子機を管理できます。



子機

5万円ほど。ワナ1基あたり1台必要になります。

**Q7. 捕獲が増えて安楽殺に時間がかかります。短縮する方法はありますか？**

A7. 電気止めさし器を利用して電気で安楽殺をした場合や小型のチャンバー（CO<sub>2</sub> 充填容器）を利用して炭酸ガスで安楽殺した場合、個体差はあるものの比較的短い時間で処理ができます。



電気止めさし器は、正しく使用しないと人体にも影響があるので扱いに注意が必要です。



アライグマの体と同じ程度の大きさの小型のチャンバー。

### III. カネ

#### Q8. 捕獲経費が足りない！どんな予算支援がありますか？

A8. アライグマ捕獲等の経費が対象となる国や道からの予算支援は表のとおりです。この中で活用している市町村が多いのは、「鳥獣被害防止総合対策交付金（農林水産省）」と「多面的機能支払交付金（農林水産省）」です。

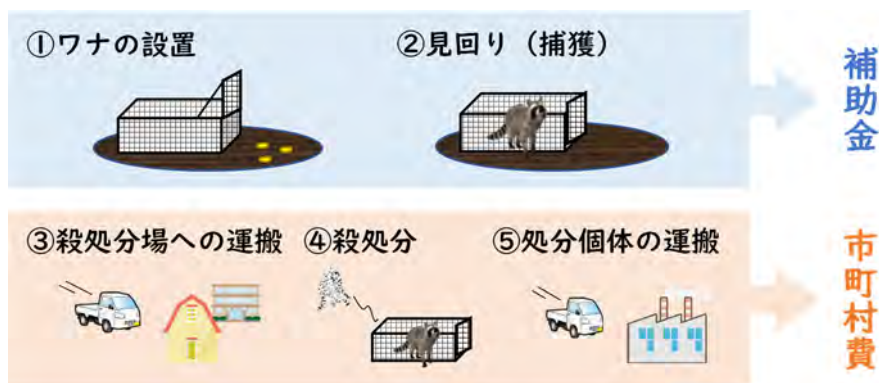
#### アライグマの防除等に係る主な支援制度について

1. 生物多様性保全推進支援事業（環境省）
2. 地域づくり総合交付金事業（地域環境サポーター支援事業）
3. 鳥獣被害防止総合対策交付金（農林水産省）
4. 特別交付税措置
5. 中山間地域等直接支払交付金（農林水産省）
6. 多面的機能支払交付金（農林水産省）

詳細は交付機関が作成する募集要項や公募要領などを確認願います。

#### Q9. 鳥獣被害防止総合対策交付金や多面的機能支払交付金を何の用途で使っているのでしょうか？

A9. ワナの購入費や捕獲奨励金をこれらの交付金で補い（下図①②）、捕獲個体の殺処分や運搬等の経費に市町村費を活用している事例が多くみられました（下図③～⑤）。ただし、交付金は、下図①～⑤の全てを対象とすることもできます。また、捕獲技術研修の開催等にも活用できます。



**Q10. 捕獲奨励金を設定したほうがいいですか？また、金額の基準はありますか？**

**A10.** 奨励金を設定することで捕獲の取組を加速させることができます。鳥獣被害防止総合対策交付金で設定された単価（1,000 円/頭）が基準になりますが、アンケート結果では、独自に上乗せしている市町村もみられました（36/48 市町村）。新たに上乗せを検討する際は、「春期に限定する」「新たな場所に限定する」などにより捕獲の効果を高めたり、「処分場までの運搬も願います」などにより捕獲作業の効率化を進めたりするといった工夫を推奨します。



## IV. 情報

Q11. 初めて業務を担当することになり、アライグマの生態や防除に関する知識がありません。どのように学ばばよいでしょうか？

A11. 今回作成した捕獲プログラムの第1章の1「捕獲の流れ」をご参照ください。また、北海道のホームページにもさまざまな情報を掲載しているのでご覧ください。市町村担当職員を対象としたアライグマ研修会を北海道が実施し、アライグマの生態・生息状況、新たな捕獲技術等を報告しています。ぜひご参加ください。



「北海道 アライグマ」で検索。



研修は振興局の環境生活課主催で開催しています。

**Q12. 捕獲従事者向けにアライグマの捕獲方法を学ぶ機会をどのように企画すればいいですか？**

A12. 捕獲従事者向けの研修会を約2割の市町村が実施しています。大学等の研究者やワナ販売業者、地元の捕獲者、市町村の担当職員などが講師となり、アライグマの生態と捕獲方法等の説明をしています。屋外研修は、屋内研修時よりも意見交換が活発になる傾向があります。広く参加者を募ることでアライグマ捕獲の従事者を増やす機会にもなります。



屋内では捕獲資材やアライグマ標本などを使いながら説明します。



屋外では被害現場やワナの使い方などについて解説します。

**Q13. 捕獲技術に関するおすすめテキストや映像資料はありますか？**

A13. 今回作成した捕獲プログラムの第2章「捕獲の実践」をご参照ください。また、北海道に生息するアライグマについては道のホームページを参照ください。アンケート結果や捕獲技術に関するDVDを各市町村に配布済みですが、再配布を希望される場合は北海道環境生活部野生動物対策課にお問い合わせください。なお、捕獲技術は、全国で共通しているため、国や他府県が作成した資料も参考になります。

**道内の情報**

アライグマ対策に関する市町村実態調査結果報告書

北海道  
環境生活部環境共生野生動物対策課

- 調査日時  
各市町村のアライグマ対策に関するアンケート結果を把握し、今後の取組に対する助言を行いました。
- 調査期間  
平成30年6月26日～平成30年
- 調査対象率  
100% (179/179市町村が回答)

アライグマの捕獲について

**道外の情報**

近畿地方アライグマ防除の手引き

アライグマ防除マニュアル  
平成27年3月  
関西広域連合

アライグマ捕獲技術プログラム Ver.1  
行政担当者が知っておくべき  
獣害対策の基本

Q14. アライグマの問題を一般住民に伝えるにはどうしたらいいでしょうか？

A14. 占冠村や新十津川町では、アライグマ対策に関する取組を広報に掲載したことがあります。また新十津川町では、庁舎を活用してアライグマ対策に関するパネルや持ち帰り用リーフレットを展示し、取組の成果を伝えました。このような取組によって、アライグマ対策の応援団を増やすことが期待できます。



パネル展ではアライグマの生態及び新十津川町での防除の取組を5枚のポスターに掲載しました。

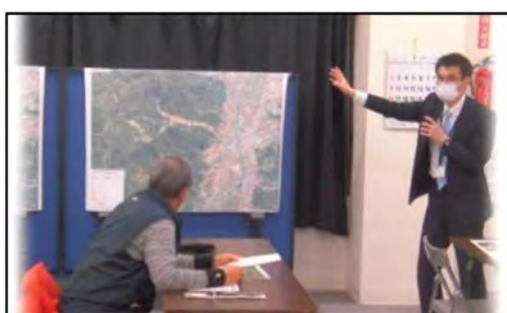


リーフレットは、A4サイズ（3つ折り）で、「生態編」「捕獲編」の2種類があります。



Q15. 捕獲従事者に町全体の捕獲に関する情報を還元する必要はありますか？

A15. 自分以外の捕獲結果が分かることで捕獲状況を広く客観的に把握することができ、次年度の取組意欲にもつながります。還元する情報としては、月別・地区別に集計した捕獲数や捕獲地点を示した地図などが考えられます。アライグマ単独ではなく、定期的に行われている集会等に併せて情報を還元するのが、継続的に続ける鍵になるかもしれません。機関誌を利用して情報を還元した事例もあります。



新十津川町では R3 年度に地域検討会を開催し、捕獲従事者へ情報を還元しました。

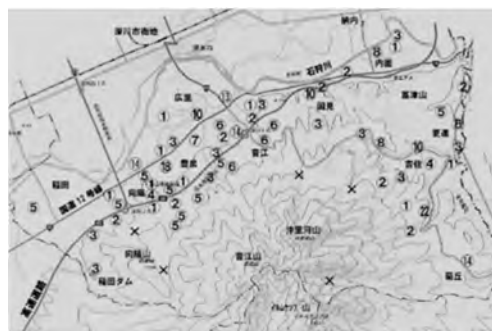
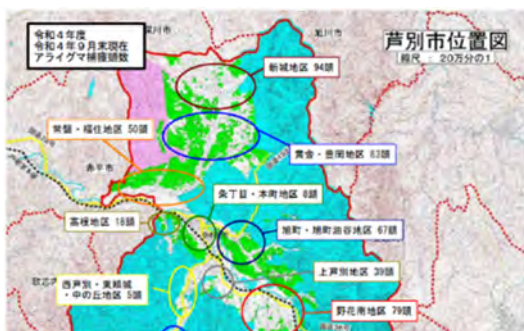
アライグマ捕獲深川市民の会は機関誌を年1回発行しています。



～地図活用のススメ～



ワナの位置や捕獲数を一つの地図に掲載することで、捕獲の現状が一目で分かり、意見交換する材料になります。ワナの位置を集約できない場合は、捕獲従事者の住所ごとに集約することや印刷した地図に捕獲数などを直接手書きしてもらうことも有効です。



地図の共有方法 I

：HPに捕獲マップを掲載。

地図の共有方法 II

：機関誌に捕獲マップを掲載。

**Q16. 捕獲従事者のやる気を上げるために役場ができることがありますか？**

A16. 意欲がわからない背景には、ワナを設置してもアライグマが捕まらない、本当にアライグマが来ているのか分からないという悩みがあります。ワナ周辺に自動撮影カメラを設置すれば、アライグマが実際に来ているのかを確認できるだけでなく、ワナの設置位置の検討材料が得られます。捕獲現場の課題を捕獲従事者と共有することで、捕獲活動への連帯感が生まれます。



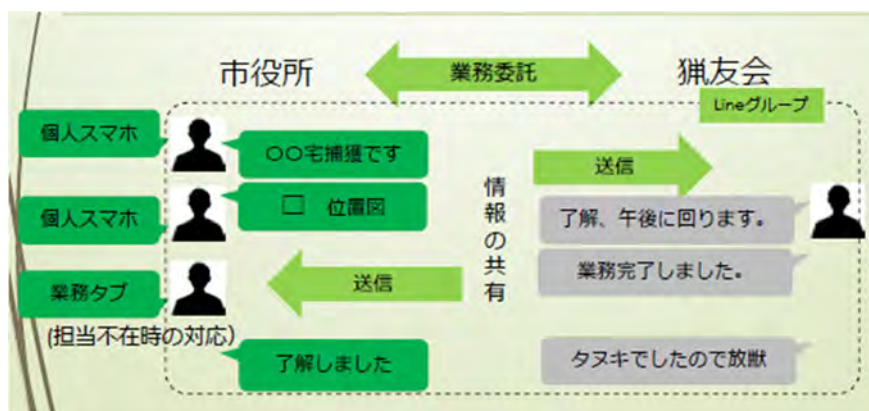
担当職員がワナ周囲の状況を確認するため  
に自動撮影カメラを設置している様子。



カメラにより、ワナ周りをうろつく  
アライグマが確認されました。

**Q17. 捕獲作業を分担したことによって関係者への連絡が煩雑になりました。どうしたらいいでしょうか？**

A17. 名寄市や美唄市では、SNS（LINE）を活用することによって、市の担当者や捕獲事業者等で連絡グループを作成し、捕獲作業ログの管理をしています。捕獲場所等の位置と捕獲時刻や捕獲個体の画像などが一元的かつ即時的に管理できて便利だそうです。



令和元年度（2019年度）空知管内アライグマ捕獲技術検討会配布資料  
における美唄市アライグマ捕獲対応へのLINEの使用例。

## 参考文献

番号	タイトル	発行者	発行年
1	近畿地方アライグマ防除の手引き	環境省近畿地方環境事務所	平成20年3月
2	地域からアライグマを排除するための手引き	環境省北海道地方環境事務所・ NPO 法人 EnVision 環境保全事務所	平成20年10月
3	北海道アライグマ防除技術指針	北海道	平成21年2月
4	アライグマ防除の手引き(計画的な防除の進め方)	環境省自然環境局野生生物課外来生物対策室	平成23年3月 (令和2年3月修正)
5	ひょうごアライグマ捕獲技術マニュアル(Ver 1.0)	兵庫件森林動物研究センター	平成23年3月
6	アライグマ防除のための手引き	大分県生活環境部生活環境企画課	平成23年7月
7	行政担当者のためのアライグマ防除体制構築の手引き	中国四国地方環境事務所	平成24年2月
8	アライグマ防除マニュアル	関西広域連合	平成27年3月
9	アライグマ等防除ハンドブック	環境省中国四国地方環境事務所野生生物課	平成27年3月
10	アライグマ捕獲技術プログラム Ver1.0	香川県	平成28年2月
11	第3次神奈川県アライグマ防除実施計画	神奈川県	平成28年3月 (令和3年4月修正)
12	地域社会のための総合的な獣害対策	(株)農文教プロダクション	平成29年10月
13	行政担当者が知っておくべき獣害対策の基本	(株)農文教プロダクション	平成30年10月
14	アライグマ防除マニュアル	石川県生活環境部自然環境課	平成31年2月

15	特集：兵庫県における外来哺乳類の現状と課題	兵庫県森林動物研究センター（兵庫県ワイルドライフモノグラフ12号）	令和2年3月
16	茨城県アライグマ防除実施方針（第3次茨城県アライグマ防除実施計画）	茨城県	令和3年4月
17	第4期大阪府アライグマ防除実施計画	大阪府	令和3年4月

これらの文献はインターネットで入手することができます（令和5年2月1日時点）

## 参考ウェブサイト

○北海道「アライグマ対策のページ」

[https://www.pref.hokkaido.lg.jp/ks/skn/alien/araiguma/araiguma\\_top.html](https://www.pref.hokkaido.lg.jp/ks/skn/alien/araiguma/araiguma_top.html)

○北海道アライグマ捕獲等情報マップ

<https://www.pref.hokkaido.lg.jp/ks/skn/alien/araiguma/97389.html#7/43.517/142.614>

○環境省「日本の外来種対策」

<https://www.env.go.jp/nature/intro/index.html>

○農林水産省「鳥獣被害対策コーナー」

<https://www.maff.go.jp/j/seisan/tyozyu/higai/index.html>

## 執筆者

北海道環境生活部自然環境局野生動物対策課

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構

産業技術環境研究本部 エネルギー・環境・地質研究所

自然環境部 生物多様性保全グループ

山口 沙耶

上野 真由美

稲富 佳洋

# 北海道アライグマ捕獲プログラム

北海道環境生活部  
自然環境局野生動物対策課  
地方独立行政法人 北海道立総合研究機構  
エネルギー・環境・地質研究所

令和5年（2023年）3月発行

編集・発行 北海道環境生活部自然環境局野生動物対策課  
〒060-8588 札幌市中央区北3条西6丁目  
電話：011-231-4111（代表）

（無断複製、転載を禁ず）